

羽田国際における FAST TRAVEL推進WG の取組み



FACE
RECOGNITION

Vivendo conseruones ea nec. Quam
ea pri, via nemoi nungam an, ea
suscipit theophrastus duo.



2018 AUG

第3回WG

2018 MAY

第2回WG

2018 MAR

第1回WG

WGメンバー

CAB / CIQ / AOC / ANA・JAL / JAT・TIAT



羽田空港 FAST TRAVEL推進ビジョン(出発)

第3回FAST TRAVEL推進WGより

FAST TRAVEL 「出発時の所要時間を**10分**とする」

一般区域
セキュリティ

チェックイン
手荷物預け等

セキュリティ
保安検査

出国
審査

搭乗
ゲート

* ONE-ID顔認証機能付き

()は台数を示す。変更可能性あり

T3

—防犯カメラによる先進的な
情報解析・警備システムの
導入を検討

T2

—T3の状況を踏まえ、
必要に応じ導入を検討

T3

—北側増床部にアイランドを
追加導入 (6→7)
—**自動チェックイン機(CUSS)***
を追加導入予定 (56→64)
—**セルフBGドロップ(SBD)***
の導入予定 (48)

T2

—**自動チェックイン機**導入予定
(台数検討中)
—**セルフBGドロップ**導入予定
(台数検討中)

T2 セルフ導線を主軸とした
新レイアウト

T3

—待ち時間測定表示
新システム導入予定
(現行システム機器の変更)
—**スマートレーン**
の追加導入予定 (1→2)
—ボディスキャナー追加導入予定
(台数検討中)

T2

—待ち時間測定表示
新システム導入検討
—**スマートレーン**導入予定
(台数検討中)
—ボディスキャナー導入予定
(台数検討中)

T2・T3

— 顔認証ゲートの導入
(日本人の出国手続)
— 入国審査官の機動的配置
— 案内表示の充実

T3

—自動搭乗改札*を導入
(台数検討中)

T2

—自動搭乗改札*を導入
(台数検討中)

FAST TRAVEL 「到着時の所要時間を**30分**とする」

一般区域
到着ロビー

税関
検疫

手荷物
受取

入国
審査

到着
導線

()は台数を示す。変更可能性あり

T3

T2

T3

税関検査場電子申告ゲート
高性能X線検査装置
デジタルサイネージを導入

T2

税関検査場電子申告ゲート
デジタルサイネージを導入

T3

ターンテーブルを增強
(6.5→8)

T2

ターンテーブル導入(3)

T2・T3

- 顔認証ゲートの導入(日本人)
顔認証ゲートの利用案内誘導
積極的な広報
- 審査ブース
コンシェルジュの配置
- ブースの縦型化による
審査ブースの拡大
- 入国審査官の機動的な配置
- 案内表示の充実

T3

T2

羽田空港 FAST TRAVEL推進ビジョン 目標設定

- 羽田における目標設定をし、各プロセスにて先進機器・システム導入および利用拡大し、ビジョンの具現化を図る。
- 「One ID」については、課題の整理研究、実証実験を実施し、その実用・実現を目指す。

< 目標値の考え方 >

第3回 羽田FAST TRAVEL推進WGより

出発・到着に要する時間を「**出発10分** **到着30分**」とし、その「所要時間内に通過した旅客比率」を目標(達成率)として設定する。なお、対象となる旅客/手続き/時間帯は別途設定する。

* 2018.11月に実地調査にて現状達成率を計測のうえ、2020における目標(達成率)設定を行う。

●対象設定/目標案

2018年 T3

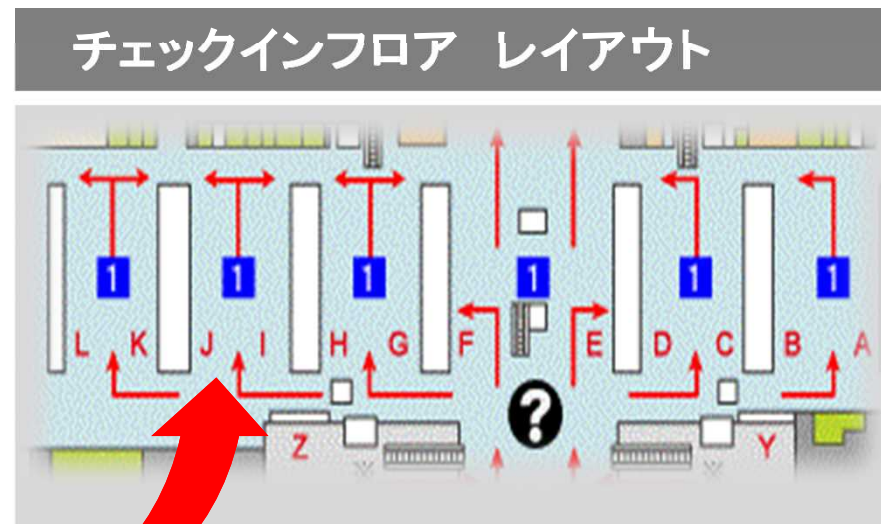
2020年 T2 & T3

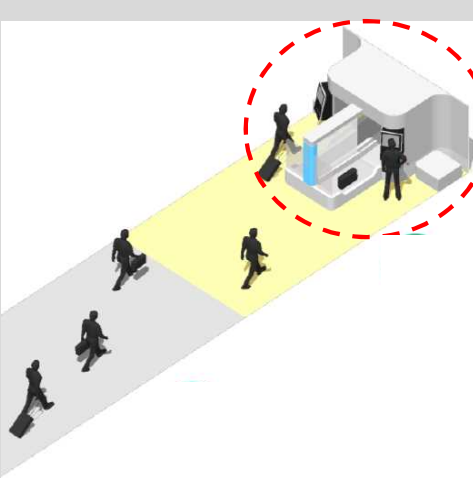
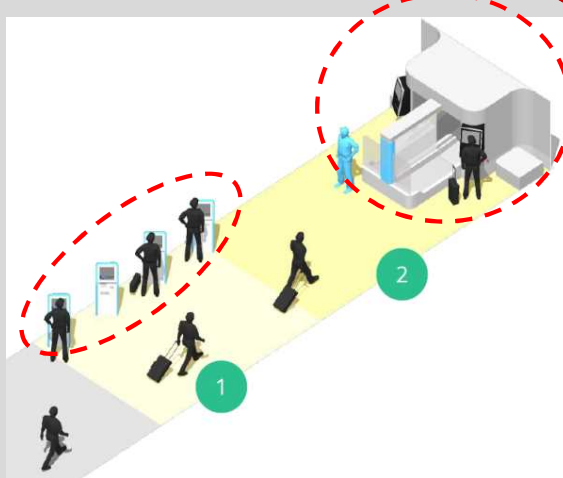
出発
10 min
以内 「午前7-9時台出発の手荷物専用カウンター利用の旅客において」
手荷物預待ち～預け手続～保安検査待ち
通過旅客比率 **41 %*** **70 %**

到着
30 min
以内 「午後8-10時台到着の旅客(日本人/外国人比率 約50%)において」
検疫前～到着出口
通過旅客比率 **81 %*** **90 %**

SBD 新規導入の検討

	レトロフィット	ニューフィット
設置イメージ	<p>既存カウンター設備そのまま ディスプレイ、センサー等を追加設置</p>  <p>海外空港 事例</p>	<p>既存カウンターをSBDユニットに換装</p> 



	1 STEP スタイル	2 STEP スタイル
手続き		

2020.3 T2・T3において本格導入

- 安全でユーザビリティ高いセルフ機器の選定
- 有/無人対応の両用、顔認証機能の拡張性
- 2 STEPスタイルによる手続きフローの分散
- フロアへの効果的・効率的なレイアウト

One ID による「本人確認の自動化」×「パスポート提示不要化」

利用シーン	自宅等	搭乗手続き	手荷物預け	保安検査	出国審査	搭乗
現在の 手続き 手続機器	 WEBで事前 チェックイン	 CUSS ・有人カウン ターでチェックイン	 有人カウンタ ーで手荷物預け	 保安検査場入口にて PRS で入場資格確認	 審査官・自動化ゲ ートで審査	 係員にて本人確認 BGR で搭乗券確認
	   パスポート + 本人確認 + 搭乗券	  パスポート + 本人確認	  パスポート + 本人確認	   パスポート + 本人確認 + 搭乗券		

2020.3 ■ 実証実験を目指す

One ID コンセプト 顔認証・自動 手続機器	 WEBで事前 チェックイン	 CUSS で搭乗券と 顔情報を紐付け	 SBD で顔認証し、 手荷物預け	 保安検査場入口にて PRS で入場資格確認	 自動化ゲートで 出国審査	 BGR で搭乗資格確認
	 搭乗券とパスポート・ 顔情報の紐付け	  パスポート + 搭乗券 + One ID生成 顔情報	 顔認証 + 手荷物預け	 顔認証 + 入場資格確認	 顔認証 + 出国審査	 顔認証 + 搭乗資格確認

羽田FAST TRAVEL 導入・展開における課題

2020.3 にむけ、特に**出発**における下記課題を認識。
官民一体となつての解決・推進を図っていきたい。

一般
区域

チェックイン
手荷物預け等

セキュリティ
保安検査

出国
審査

搭乗
ゲート

SBD導入にむけ、

- 広く、多くのエアラインに利用いただける料金体系づくり
- T3 既存のカウンターフロアへのレイアウト計画、換装工事

T3 増便にともなう
混雑緩和にむけ、

- 保安検査場への**スマートレーン**導入の更なる拡大



One ID

- 航空保安としての'本人確認'を「自動化」に置換え可能とする制度確立